

教養課程:「歯肉サポート形態の臨床的検証」

予知性(Predictability)の高い審美修復物の成功基準には、「白・赤」間の移行部が調和すること。すなわち、自然な外観状態を保ち目立たないことが望まれる。そのためには天然歯がもつ様々な色調や形態・表面性状を再現すること、そして歯周組織の各名称・分類などの組織学的知識を熟知し、歯科医師・歯科技工士双方が明確に情報を伝達し適切なマネージメントを行う必要がある。

今回は、自然な外観を表現する上で日々行っているテクニカルモデル(トレーニング方法)、そして歯周組織の各名称・分類などを再確認していただき、臨床におけるアプローチ方法をご紹介しますと思う。

専門課程:「デジタルツールを活かした補綴設計」

欠損補綴の治療方法において、残存歯への負担軽減や MI の観点からインプラント治療への選択肢の有用性は高いと考えます。インプラント治療を行う場合、機能回復・審美修復・治療期間の短縮・リスク回避など患者の要望も様々である。

以前の外科主導型の治療から補綴主導型へと変わり、近年のデジタル技術の向上により安心安全なインプラント治療の施術が可能となり、インプラント治療においてデジタル技術は必要不可欠である。

弊社が導入しているインプラントシミュレーションシステム(シンプラント、デンツプライシロナ)は国内で 25 年以上前から活用されている歴史のあるシステムになる。

このシステムを活用することにより、インプラント埋入計画をチェアサイドとラボサイドとでデータ共有をすることが可能となり、歯科医師・歯科技工士のコミュニケーションツールとして、さらには患者へのプレゼンテーションをはかることができる。

また、IOS データにてワックスアップ、CBCT とのマッチング、埋入設計等の治療計画を反映した施術を行い、無理のない上部構造の設計が可能となる。

今回の講演は弊社が使用しているシステムを交えたインプラント補綴設計をご紹介しますと思う。